

決議

地域医療を守れ

大分県は、去る1月、豊後大野市に対して「公立おがた総合病院」と「県立三重病院」の統合を申し入れてきました。

豊後大野市の地域医療を守るために、「公立おがた総合病院」の医師不足の解消と「県立三重病院」の存続を求める決議

大分県は、去る1月、豊後大野市に対して「公立おがた総合病院」と「県立三重病院」との統合を申し入れてきました。

本市は、この提示を受け、統合を前提としない「地域医療を守るためにの公立病院のあり方検討委員会」の設置を図ったところである。

本市内にある「公立おがた総合病院」と「県立三重病院」は、本市のみならず豊肥県南地域医療の中核的な役割を担っており、さらに両病院は二次救急医療施設として、また、へき地医療拠点病院としての機能の維持が期待され、その重要性は今後ますます増大するものと思慮される。

しかしながら、全国的に深刻化する医師不足から両病院とも厳しい環境下に置かれ、地域住民の将来への不安は募るばかりである。

豊後大野市議会は、住民の代表として市民の暮らしと健康、命を守るために、両公立病院の機能及び経営基盤の充実強化を訴え、地域住民の期待と負託に応えなければならない

よって、豊後大野市議会は、豊後大野市及び大分県に対して、本市の地域医療を守るために、「公立おがた総合病院」の医師不足解消のための抜本的な対策と併せて「県立三重病院」の存続を強く求めるものである。

以上、決議する。

平成20年3月19日

大分県豊後大野市議会
議長 若松成次

市議会は、平成20年第1回定期例会で、市および大分県に対し、本市の地域医療を守るために、「公立おがた総合病院」の医師不足解消のための抜本的な対策と併せて「県立三重病院」の存続を強く求める決議をしました。



豊後大野市の地域医療を考える

特別委員会を設置

地域住民の期待と負託に応えるべく、県に対し、豊肥県南地域医療の中核的な役割を担う両病院の重要性と、住民の暮らしと健康、命を守る公立病院の機能及び経営基盤の充実強化を訴えなければなりません。

よって、医師不足解消のための抜本的な対策と、「県立三重病院」の存続を強く求めていくこと、併せて「あり方検討委員会」の推移を検証し、豊後大野市の地域医療を後退させないために委員会を設置しました。

- ・委員の定数
議長を除く議員全員の30人
- ・調査の期間
平成21年3月定例会まで

